

# 令和元年度第 2 回浜松市地域公共交通会議

## 会議録

**1 開催日時** 令和元年 11 月 1 日（金） 午前 10 時 00 分から午後 0 時 00 分まで

**2 開催場所** 浜松市役所本館 8 階 全員協議会室

### **3 出席状況**

会長

大村 兼資（浜松市都市整備部長）

副会長

中野 民雄（静岡文化芸術大学デザイン学部准教授）

委員

大倉 篤（静岡県交通基盤部都市局地域交通課長）

代理 紅林 哲

諸井 宏司（遠州鉄道株式会社運輸業務部長）

田中 友親（遠州鉄道株式会社労働組合副執行委員長）

丸山 晃司（浜松市タクシー協会会長）

田口 博（南区自治会連合会長）

川出 虎義（北区自治会連合会長）

西村 恭一（浜北区自治会連合会長）

藤原 昌仁（天竜区自治会連合会長）

夏目 雅子（浜松いきいきネットワーク代表）

小松田 始（中部運輸局静岡運輸支局首席運輸企画専門官）

大見 芳（特定非営利活動法人がんばらまいか佐久間理事長）

柴山 智和（浜松市土木部長）

代理 白柳 裕一

山根 寛史（浜松中央警察署規制係長）

代理 村松 憲吾

落合 康浩（浜松東警察署規制係長）

代理 遠藤 直弥

加藤 篤（浜松西警察署交通係長）

伊藤 康志（浜北警察署交通係長）

武田 道成（天竜警察署交通係長）

森 正明（細江警察署規制係長）

## 事務局

鈴木 浩治（交通政策課長）  
外谷 新（交通政策課公共交通グループ長）  
井口 哲（交通政策課公共交通グループ）  
近藤 大樹（交通政策課公共交通グループ）  
笠原 のどか（交通政策課公共交通グループ）  
深瀬 真司（交通政策課公共交通グループ）  
青木 久実（北区まちづくり推進課環境交通グループ長）  
黒柳 紀博（北区まちづくり推進課環境交通グループ）  
宮木 隆之（浜北区まちづくり推進課環境交通グループ長）  
和久田 佳代（浜北区まちづくり推進課環境交通グループ）  
吉澤 和久（天竜区まちづくり推進課計画交通グループ長）  
吉田 久記（天竜区まちづくり推進課計画交通グループ）  
古川 成規（天竜区まちづくり推進課計画交通グループ）

## 要綱第 11 条に基づく出席者

森下 廣隆（特定非営利活動法人春野のえがお理事長）

## 4 傍 聴 者 5 人

## 5 議 事 内 容

### 〔協議事項〕

(1) 公共交通空白地有償運送における ICT システムを導入した実証運行の延長及び公共交通空白地有償運送ガイドラインの一部改正について

### 〔報告事項〕

- (1) 公共交通空白地有償運送運行状況報告（H31.4～R1.9）について  
(2) 浜松市地域公共交通網形成計画について  
(3) 地域公共交通会議書面開催議決事項について  
・ 自主運行バス阿多古線におけるフリー降車区間の新設について

## 6 会議録作成者 交通政策課公共交通グループ 深瀬 真司

## 7 記録の方法 発言者の要点記録 録音 有

## 8 会議記録

### 1 開会

・ 本日の出席は全委員 22 人中 20 人の出席であり、要綱第 9 条第 2 項の規定により過半数を満たしているので本会議が成立することを報告。

（出席者 20 人中 代理出席 4 人、欠席 0 人）

## 会長挨拶

- ・前回の会議で協議した北遠本線等の運行が令和元年10月1日より開始した。
- ・台風19号は日本各地に甚大な被害を与えた。このような大きな災害は公共交通においても、計画運休や道路の通行止めなど、大きな影響を及ぼす。本市においても、自主運行バス等の計画運休を行った。自然災害については、行政、事業者、市民がそれぞれ危機管理意識を持ち、備えるようお願いしたい。
- ・市民にとって使い勝手の良い公共交通にするために、それぞれの立場から議論を深めてほしい。

## 2 議事

### 【協議事項】

#### (1) 公共交通空白地有償運送における ICT システムを導入した実証運行の延長及び公共交通空白地有償運送ガイドラインの一部改正について

##### 【交通政策課】

- ・町外への実証運行を平成29年12月23日より実施している。
- ・従来は町外の病院や商業施設へ公共交通で移動するには乗継をしなければならなかったが、この実証運行により乗継をすることなく移動できるようになった。
- ・実証運行期間中は町民だけでなく観光客にも利用されたが、利用実績が少ない状況である。
- ・需要を十分把握して、運行箇所などを精査し、地域住民および来訪者にとって必要な足として町外運行を定着させ、今後本格運行について検討していきたいため、実証運行を1年延長したい。
- ・実証運行による民間タクシー事業への影響等についても把握をしたい。
- ・運行時間は7時～16時まで、運行エリアは、会員は佐久間町内から下記運行箇所を往復に限り乗降可、会員以外の方は西鹿島駅から佐久間町内で片道でも乗降可である。
- ・実証運行の延長によりガイドラインを一部改正する必要があるため、実証運行期間を2年から3年に変更する。

### ●質疑応答

#### 【天竜区自治会連合会長 藤原委員】

天竜区内での運行は1人当たり6,000円ということか。

#### 【交通政策課】

1台当たり6,000円である。4人で乗れば1人1,500円である。

#### 【天竜区自治会連合会長 藤原委員】

1人で乗ると6,000円ということか。

#### 【交通政策課】

その通り。

#### 【北区自治会連合会長 川出委員】

1人でも1,500円で運行するのか、それとも複数人いないと運行しないのか。

### 【交通政策課】

1人でも運行するようになっている。乗合をする必要はないため、6,000円払えば1人でも運行することができる。

### 【北区自治会連合会長 川出委員】

1人で6,000円払うというのは、非常に効率の悪い運行になると思う。

自分1人しか乗ってないのに6,000円払うことになったら、利用する人はいないのではないか。

### 【交通政策課】

タクシーに乗るときは1人でも2人でも同じ運賃を支払う。考え方としてはそれと同じような考え方である。

## ●協議

<b>結果</b>	・全会一致で了承された。 ・「協議の調ったことを証する書類」を交付する。
-----------	---

### 〔報告事項〕

#### (1) 公共交通空白地有償運送運行状況報告 (H31.4~R1.9) について

##### 【がんばらまいか佐久間 大見委員】

- ・会員登録者数は1,960人、使用車両数は2両、運転手は8人である。
- ・運送回数は1,374回、運送人員は1,678人、収入は1,066,000円であった。
- ・事故、苦情件数は0件であった。
- ・交通空白地有償運送を行っている京丹後市のNPOを招いてシステムの説明を受けた。
- ・月別利用推移は一定の値を保っている。
- ・地域外への実証運行の利用者数は少ないが、今後さらに利用促進を図っていく。

##### 【春野のえがお 森下氏】

- ・運行状況については大きな変化はなく、事故、苦情件数は0件であった。
- ・平成31年4月より所在地が春野町宮川1768番地に変更になった。
- ・会員が若干減ったが、使用車両、運転者については変更なし。
- ・運行管理、整備体制については変更なし。
- ・運転手に対して安全な運行をもらうように研修を行っている。
- ・利用者人数、運賃収入が平成30年度に比べて増加した。広報活動の効果だと考えている。

## ●質疑応答

-なし-

#### (2) 浜松市地域公共交通網形成計画について

##### 【交通政策課】

- ・浜松市ではコンパクトシティを実現するための計画として、立地適正化計画を平成31年4月に施行しており、公共交通ネットワークを実現するための計画として、地域公共交通網形成計画を令和2年度の公表に向けて策定を進めている。

- ・ 昨年は基礎調査として中山間地域を中心にアンケート等を行った。今年度は本調査の年として、詳細計画を策定している。
- ・ 基幹・準基幹路線等を設定し、市民の移動性向上を目指している中で、人口減少、震災による需要変化に加え、ICTの導入やタクシーの必要性などの交通形態も変化しており、公共交通ネットワークの見直しが必要となっている。
- ・ 基幹路線は、都心と市民の日常生活を支える拠点である地域拠点・主要生活拠点を結ぶ路線として設定する。
- ・ 準基幹路線は、産業の拠点や観光の拠点を結ぶ路線として設定する。都市計画区域外については、北遠本線、秋葉線など地域を結ぶ主要な路線についても準基幹路線とする。
- ・ 基幹・準基幹路線ではカバーできないエリアや終着点から先の交通については、地区内交通を設定し、都市計画区域内の市街地・郊外地については、民間路線バス、一般タクシーが担う。都市計画区域外の中山間地域などでは、地域バスやNPOタクシーなどが担う。また、ICTの活用を検討し、効率的・利便性を高めていきたい。
- ・ 浜松駅の総合ターミナル、公共交通を乗り継ぐことを目的とした乗継ぎターミナル、公共交通機関の終着点であるミニバスターミナルを設定する。
- ・ 基幹路線の運行本数は100本/日以上とし、準基幹路線については、50本/日以上で設定している。
- ・ 中山間地域については、移動性の確保という観点から、本数での設定はしていない。
- ・ 鉄道は遠州鉄道を基幹路線、天浜線、飯田線を準基幹路線と設定する。
- ・ JR天竜川駅からイオンモール浜松市野までを結ぶ環状路線バス「ひがしくん」を過去に実証実験で運行したが、収入が目標値に到達せず、永続的な路線継続は困難という結果であった。
- ・ 基幹・準基幹路線のサービス方針は、運転手不足や経営状態等を踏まえながら、現計画で示されている運行本数、運行時間で将来的に提供していくことが可能であるかを交通事業者と調整を図り、併せて市民アンケートを実施し、市民のニーズも確認した上で、決定していく。
- ・ 公共交通軸及び基幹・準基幹路線等のサービス方針の見直しを行い、公共交通ネットワークを設定していく。
- ・ 持続可能な公共交通を目指すために、定時定路線の交通、それ以外の交通も活用した地域の移動性向上や、交通間の連携強化を考えていく必要があり、都市計画区域内及び中山間地域での地域特性に応じた交通ネットワークの融合や、移動手段の確保を行うことが見直しのポイントとなる。
- ・ 今後の公共交通政策は、MaaSや自動運転技術の導入が期待されている。MaaSは、地域別のモデルとして、都市型、地方都市・郊外型、観光型等に分けられ、現在、県内でもモデル別の実証実験が行われており、浜松市でも、西区で実証実験に取り組んでいる。法体系の整備など国の動向も踏まえながら、これら新しい技術も今後の計画で検討する必要がある。

## ● 質疑応答

### 【遠州鉄道(株) 諸井委員】

運転者不足問題について、学校行事等で大量の輸送が要になり、バスを数十台運行してほしいと依頼された時に、対応困難な状況である。バスと鉄道を比較すると、鉄道の輸送量は遥かに高く、拠点から遠距離のバスを伸ばすことは往復時間を考えると難しい。鉄道での輸送が最も便利で、交通弱者を輸送できる。鉄道駅が乗り継ぎターミナルとして指定されれば、短距離のバス輸送でのピストン輸送で実現できる。浜松市では大型公共施設の移転や建て替えを計画していると思うが、移動手段はどのように検討しているのか。

### 【交通政策課】

音楽ホールは都田地区に移転するよう進められているが、毎日イベントを行うわけではないため、イベントの際に最寄りの鉄道駅からのピストン輸送等で対応していきたい。地域公共交通網形成計画の中では一時的なものについては具体的に述べられていない。

### 【遠州鉄道(株) 諸井委員】

基幹路線、準基幹路線の運行本数は住民のアンケート調査等で需要を把握し検討するとあるが、アンケートではバス路線があれば便利だと答える人が、実際運行すると乗らないということも多々あるため、他の市町村でのアンケート調査と運行開始した際の乖離状況等を参考にして、アンケート調査から需要を把握してほしい。

### 【交通政策課】

アンケートでは、一年に一度しかバスに乗らない人でもバス路線があったらいいと回答することが非常に多い。アンケート結果から需要を把握し検討していきたい。

### 【浜北区自治会連合会長 西村委員】

第三都田地区は工業誘致地区になっており、この先 10 年の間に従業員が大幅に増える。現在は公共交通機関がないため、多くの人マイカーで通勤することになると思うが、市としての対策・見解について教えてほしい。

### 【交通政策課】

現在、第三都田地区の工場は供用していないが、あと 10 年ほどで 1,000 人単位の従業員が通勤すると聞いている。その人たちができるだけ公共交通を使ってくれればいいが、マイカーを使う人の方が多いと想定される。今後、供用の時期を見ながら、改めてアンケート等を行い、需要を確認する。現在、路線バスがテクノロードを走っているため、路線変更の協議をすることも検討したい。また、進出してくる企業に通勤バスを走らせてもらい、渋滞の緩和を図ってもらいたいと考えている。

### 【天竜区自治会連合会長 藤原委員】

公共交通ネットワークの見直しのポイントについて、中山間地では、地域バス、自主運行バス、NPO タクシー、一般タクシー等を活用しての移動手段を確保するという内容だったが、天竜区としては寂しい計画、見直しだと思う。

#### 【交通政策課】

中山間地域での人口減少や、運転手不足といった問題に対応するため、NPO タクシーや、デマンド運行で地域の実情に応じた公共交通を続けていけるように検討していきたいと考えている。今後も地元からの意見をいただきたい。

#### 【北区自治会連合会長 川出委員】

公共交通が整備されれば自動車による日常的な混雑はなくなるのではないかと思う。天竜浜名湖鉄道の内側に都田・新都田への交通手段がないため、循環バスの運行を検討してほしい。

#### 【交通政策課】

天竜浜名湖鉄道の乗降客数は伸びていないが、何とか現状を維持している。天竜浜名湖鉄道では観光客を誘致する動きもあるため、そういった需要も把握し、鉄道とバスの乗継で観光客が乗るような需要があるかを調査して、将来的に環状路線バスが維持できるか検討していきたい。

### (3) 地域公共交通会議書面開催議決事項について

#### ・ 自主運行バス阿多古線におけるフリー降車区間の新設について

#### 【交通政策課】

- ・ 令和元年7月19日付けで異議なし22名で承認された。
- ・ 後続車に対する安全対策として車体後部にフリー降車の実施について表示をすべきではという委員からの意見があり、交通事業者と調整の結果、車両後部に表示をした。

#### ● 質疑応答

-なし-

### 3 その他

-なし-

### 4 閉会